

通告時間 60分

問 人口増加対策は急務ですが、対応は

答 多古台の計画的な土地利用を進めたい

図書室の現状と建設構想は

問 図書室については、緊急避難的にコミュニティプラザロビーを利用しているようですが、早急に整備すべきだと思います。現在の利用状況と今後の構想を伺います。

町長 社会教育施設全般にわたり整備の遅れがある中、財源確保に努力し、計画的に整備していきたくと考えています。

教育課主幹

利用状況は（プラザに移設した4月19日から11月末まで）延べ人数で3640人、1日あたり約20人です。実利用者数は661人で、町民の4.1%の人が利用しています。図書館建設に対する補助金について、図書館だけの事業では望めません。



プラザロビーに移された図書室

子ども園の設計に柔軟さは

問 女性の社会進出等により乳幼児の保育は増加すると思えますが、子ども園計画の定員で十分ですか。増築は可能な設計となりますか。

町長 特に0歳児の定数については検討を加えているところですが、施設の構造については、増改築が困難とならないよう配慮した設計を考えています。

さらなる学力向上を

問 教育について3歳からの幼稚園教育は素晴らしいことです。連動して小学校、中学校でもカリキュラムを前進させる教育をしてもらいたいと思いますが、どうですか。現在の多古町の小学生、中学生

の学力レベルは国や県と比べてどうなっていますか。

教育長

幼稚園については文科省の教育要領を基本としながらも、保護者のニーズ等を考慮した教育課程を編成し、小学校へのスムーズな接続に取り組んでいます。小中学校においても新学習指導要領を基本とし、毎年独自に教育目標、教育計画を策定し、学力向上に取り組んでいます。学力レベルについては、千葉県の平均は全国平均とほぼ同じレベルであり、多古町小学校の平均もほぼ同レベルです。

問

多古高校についても、町の教育と連動してレベルアップしてほしいと思いますが、どう考えますか。

教育長

多古高校は文科省のコミュニティスクールに指定される予定です。保護者や地域住民の代表が学校運営協議会に参加し、話し合うこととなります。その中で小中学校との連携も推進することが可能だと考えられます。

多古台に高層住宅を

問

総合計画では今後5年間で1000人程の人口減少を見込んでいます。人口増加対策は急務です。多古台は子育て世代に最適な場所です。人は移動する時代ですから賃貸の集合住宅を開発の中心に据えて、空港東側の中心都市を目指し、多古町のシンボルタワーとなるような高層マンション1棟から始めてはどうですか。見解を伺います。

町長

希望のエリア多古台の開発を推進させるべく、開発事業者の誘致や多古台の魅力向上に努めてきました。現在は第一種低層住宅専用地域に指定されており、コンビニや高層住宅は認められませんが、環境に配慮した企業や集合住宅の誘致も含め、さまざまな観点から検討を加え、都市計画の変更も視野に入れながら、計画的な土地利用を進めていきたくと考えています。



那須 保秋 議員

通告時間 60分

問 こども園の病後児保育の予定は

答 体調不良児対応型で実施予定です

幼稚園再編への対応は十分か

問 幼稚園は多古・中・常磐を一つに統合することですが、再編への取り組み状況と再編後の入園児の見込みは。

教育長

現在の4園を24年度から2園に統合し、再編が円滑に行えるように、再編推進作業部会を設置して検討を進めています。24年4月からの園児数は、多古幼稚園5歳児44人、4歳児35人の計79人。久賀幼稚園は5歳児16人、4歳児2人の計18人。合わせて97人で前年とほぼ同様の園児数です。

問

現在実施している4歳児・5歳児の幼児教育のキャリアキュラムに変更はありますか。

教育課長

新たな取り組みとして、外部講師を迎えて、例えば体操教室などを検討中です。統合後も現在の3台の園バスで対応することは、可能ですか。

多古こども園の進捗状況は

問 現在までの経過と今後の予定を説明してください。

町長

現在は設計と測量に着手し、今後は詳細設計、確認申請、開発申請を24年11月頃までに完了させ、25年1月から建設工事開始、同年11月頃に完成予定です。多くの保護者の意見を反映したこども園にするために、子育て支援推進協議会への保護者の参加状況と実施回数、今後の予定を伺います。

子育て支援課長

協議会のメンバーは、教育長、関係課長、病院長、校長会、医師会、農協、工業団地連協、各代表の方と保護者の方2名です。5月に1度開催しています。

問

こども園の病後児保育は現段階で実施の予定はありますか。

子育て支援課長

こども園では、通園児に対応型について実施する予定です。



介護予防の推進策は

問 人口の約3割が65歳以上という急速な高齢化にむけ、予防教室の実施状況と今後の進め方は。

町長

転倒予防教室（41名参加）は3つにレベル分けし、12回開催し、栄養・口腔教室（14名参



菅澤 環 議員

問

加）は6回開催しました。24年度はこれらの教室を複合型で行う予定です。今後は高齢者が運動できる場を検討し、予防強化に努めます。

町長

年度内に開設できるように、現在の改修工事中です。オープン後の運営は社会福祉協議会が担当し、多目的トイレやキッズコーナーなどを配置し、幅広い年代が集える町のほっとステーションの様な役割をと考えています。

今後の公共交通の計画は

問 現在、循環バスの3ルート5便は継続してもらいたいが、今後の計画はどう考えますか。

町長

循環バス、シャトルバスは財政面から今後も現状の運転を継続し、補完機能としてデマンドタクシーなど新たな交通手段の確保についても検討中です。